

北九州工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	文化交流史（後期）	
科目基礎情報							
科目番号	0119			科目区分	一般 / 選択		
授業形態				単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	生産デザイン工学科（情報システムコース）			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	大熊 智之						
到達目標							
1）民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。 2）19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。 3）より良い自文化・異文化の見つめ方とその表現の仕方について自分なりに考え説明することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。			民族、宗教、生活文化の多様性をとおむね理解できる。		民族、宗教、生活文化の多様性についての理解が十分でない。	
評価項目2	19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。			19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、とおむね理解できる。		19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係についての理解が十分でない。理解が十分でない。	
評価項目3	より良い自文化・異文化の見つめ方とその表現の仕方について自分なりに考え説明することができる。			より良い自文化・異文化の見つめ方とその表現の仕方について考える必要を理解できる。		より良い自文化・異文化の見つめ方とその表現の仕方について考える必要を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	日本列島と朝鮮半島（および東アジア諸地域）の歴史を描いた記録・創作物等の読み解きを通して、東アジアの歴史に関する知識を深めるとともに、自文化・異文化の見つめ方とその表現の仕方について考える。						
授業の進め方・方法	・本授業は教員による講義と学生による発表・討議によって構成される。 ・映像作品・文学作品等の鑑賞と分析も適宜取り入れる。						
注意点	・受講生の関心や時勢に応じて講義内容を変更することがある。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	文化交流史とは何か（1）		より良い自文化・異文化の見つめ方とその表現の仕方について自らの考えを説明することができる。		
		2週	文化交流史とは何か（2）		民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。		
		3週	東アジアの国際秩序の転換（1）		19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。		
		4週	東アジアの国際秩序の転換（1）		19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。		
		5週	韓国併合と日本の植民地政策		19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。		
		6週	韓国併合と日本の植民地政策		民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。		
		7週	韓国併合と日本の植民地政策		より良い自文化・異文化の見つめ方とその表現の仕方について自らの考えを説明することができる。		
		8週	中間試験		民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。		
	4thQ	9週	分断国家の成立と南北関係		19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。		
		10週	分断国家の成立と南北関係		民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。		
		11週	分断国家の成立と南北関係		より良い自文化・異文化の見つめ方とその表現の仕方について自らの考えを説明することができる。		
		12週	台湾の植民地支配と歴史認識		19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。		
		13週	台湾の植民地支配と歴史認識		民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。		
		14週	台湾の植民地支配と歴史認識		より良い自文化・異文化の見つめ方とその表現の仕方について自らの考えを説明することができる。		
		15週	総合討論		より良い自文化・異文化の見つめ方とその表現の仕方について自らの考えを説明することができる。		
		16週	定期試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	後6,後8,後10,後13
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	後3,後4,後5,後9,後12
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	後15
				全ての人々が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。	3	後15
				技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	3	後7
				それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	後14
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	後11
				日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
評価割合						
		試験	演習・レポート		合計	
総合評価割合		80	20	0	100	
基礎的能力		80	20	0	100	